

## 目 次

### 第 1 章

悪はなぜ神の創造の一部なのか .....	1
----------------------	---

### 第 2 章

神はなぜ世界を創造されたのか .....	15
----------------------	----

### 第 3 章

広大無辺な娯楽の世界 .....	35
------------------	----

### 第 4 章

創造の神秘のヴェールの背後にある 神の無条件の愛を見いだす .....	57
--	----

## 第 1 章

# 悪はなぜ神の創造の一部なのか<sup>(1)</sup>



### 悪の起源とは何か？

人々の中には「神は悪を知らない」と言う人もいます。それは、略奪や殺人や病気や貧困など、この地上で絶えず起こっているひどい出来事を、善なる神がなぜ許されるのかを説明できないからです。これらの不幸な出来事は、われわれにとっては確かに悪です。しかし、それは神にとっても悪なののでしょうか？ もしそうなら、なぜ神はそのような悪を許されるのでしょうか？ そしてもし悪が、すべてを創

---

(1) 1946年11月17日の講話からの抜粋。全文はSelf-Realization Fellowship 出版の『The Divine Romance』（パラマハンサ・ヨガナンダの講話・エッセイ集 第2巻）に掲載されています。

られたお方である至高の神から来たものでないのなら、いったいどこから来たのでしょうか？ 誰が貪欲をつくったのでしょうか？ 誰が憎悪をつくったのでしょうか？ 誰が嫉妬や怒りをつくったのでしょうか？ 誰が有害な細菌をつくったのでしょうか？ 誰が性的誘惑や、もっともっと欲しいという誘惑をつくったのでしょうか？ こういったものは人間が発明したわけではありません。あらかじめ創造されていないならば、人はこういったものを経験することはなかったでしょう。

なかには、悪は存在しないと、心理的要因にすぎないと説明しようとする人もいます。しかしそれは間違っています。この世に悪が存在するのは明らかであり、否定することはできません。もし悪が存在しないなら、なぜイエスは「私たちが誘惑に遭わせず、悪からお救いください」（マタイによる福音書 6 :13）などと祈られたのでしょうか？ 明らかにイエスは、「悪は存在する」と言っています。

われわれは実際にこの世界で悪を目にしています。悪はどこから来たのでしょうか？ 神<sup>(2)</sup>からです。悪が善を引き立たせてくれるからこそ、われわれは善を認識し、経験することができるのです。何らかの創造が行われるためには、悪の存在が必要でした。白い板に白いチョークで何かを書いても見えません。黒板という悪がなければ、この世の徳が賛美されることはないのです。例を挙げるなら、ユダはイエスの最高の宣伝係だったと言えるでしょう。ユダは、その邪悪な行為によって、キリストを永遠に有名にしたのです。イエスは、自分が演じなければならぬ役柄をご存知でした。神の愛と偉大さを身をもって示すために、自分の身に降りかかろうとしている出来事すべてをご存知だったのです。そして、そのドラマのためには悪役が不可欠でした。しかし、悪役を選んだことは、ユダにとっては不幸なことでした。ユダの邪悪な行為が引き立て役となって、悪に対するキリストの勝利の栄光がたたえられるようになったのです。

---

(2) わたしが主である。ほかにはいない。わたしは光をつくり、闇をつくる。平和をつくり、災いをつくる。主であるわたしが、これらのすべてを行う。(イザヤ書 45:6-7)

## 善と悪を分ける境界線は どこにあるのか？

善と悪との境界線がどこにあるかを知ることは、容易ではありません。細菌が100年ごとに20億もの人間を殺すというのは、確かに恐ろしいことです。しかし、死が存在しなかった場合の人口過剰による大混乱を想像してみてください！ それに、ここにあるすべてが正しく完全であったら、自ら進んでこの地上を去り神のもとへ帰ろうとは誰も思わないでしょう。ですから、不幸はある意味で、あなたの親友なのです。なぜなら、それは神を求め始めるきっかけとなるからです。この世界の不完全さがはっきり見えてくると、あなたは神の完全性を探し始めます。実は、神はわれわれを滅ぼすためにではなく、神の単なる遊び道具であるこの世界に幻滅して神を探し求めるよう、悪を利用しておられるのです。

これが、主ご自身が悪や不正を許されている理由です。しかし、私は神にこう言ったことがあります、「主よ、あなたは苦しまれたことはありません。常に完全なお方なので、苦しみがどんなものか知る由よしもありません。それなのに、

あなたはわれわれにこのような試練を課して来られました。そんなことはすべきではありません。われわれは、いつか死ぬ人間として生まれ、苦しませてほしいなどと頼んだ覚えはありません。」(神は、私が口論を持ちかけるのを嫌がられません。神はとても辛抱強いのです。) 主は言われます、「苦しみ続ける必要などないのだ。わたしはみなに自由意志を与え、悪の代わりに善を選ぶことによってわたしのもとへ戻れるようにしてあるのだから。」

つまり悪とは、神が人間に与えた試練であり、われわれが神と神の贈り物のどちらを選ぶかを見極めるためのものなのです。神はご自身の似すがたに人間をつくられ、自分で自分を自由にする力を与えてくださいました。しかし、われわれはその力を使っていないのです。

